



雪の河童橋

雪山は八ヶ岳程度としていたがそれもきつくなってきたので、今ではスノーシューである。釜トンネルから河童橋まで歩くだけなので、アイゼンも6本歯と案内書に書いてあったので、登山靴も雪山用とはしないでトレッキングシューズとした。これが失敗であった。貸与品のスノーシューの締め具がブカブカである。1時間ほどしたら外れてしまった。まあ幸い履き直したらあとは何とかだった。

靴マーク2と軽めの山旅であったので、いつもとメンバー構成が違う。けっこう若い人もいたりして、ジジババばかりではない。

初日は鍋平高原でスノーシューの講習である。西穂ロ



一プウェイのお兄さんとお姉さんが鍋平一帯を 2 時間程度一回り案内してくれる。そして泊はホテル穂高である。やはりいつもの山登りとは違う。

2 日目が本番の上高地めぐりである。釜トンネルの入り口でバスを降りて、1.3 kmの釜トンネルを抜けると梓川沿いの雪道が待っている。

歩き始めてすぐに、“あら、高橋さんじゃないですか？”と声をかけられる。なんと、定年まで勤めた会社の同僚の若林君が奥さんとともにいる。高校時代の山岳部の OB と共に来ているという。彼は東北に転勤で居住していた時代があった。その頃は私が日本 100 名山をつぶすことに一生懸命だった時代であったので、1983 年には仙台の若林家に泊めてもらって、若林夫妻に加えて小学生時代の二人の子供も一緒に早池峰山に登った。翌日、小岩井農場まで送ってもらって、そこからは一人で岩手山から八幡平の縦走をした。1986 年には月山と鳥海山を登った後に、更に秋田営業所に転勤になっていた彼の家に行って一杯ごちそうになった。そんな関係で彼の娘の結婚式にも招待されたこともある。まあなんという奇縁か。私のように山登りばかり何十年もやってい



若林夫妻



ると、このような出会いは 5~6 回はある。そんなとき、常に向こうから声をかけられる。キリマンジャロで一緒だった島田夫妻と黒部五郎で会ったとき、ゴーキョピークの竹内さんと尾瀬の鳩待峠で会ったときなどがそうだった。目がド近眼というせいもあるが、周りのことに注意を向けていないというせいであろう。

雪の季節にこの道を歩くのは 3 回目くらいと思えるが、過去の場合は西穂が大雪で登れなかったからとか、埋め合わせで来た時ばかりであった。だから真面目に河童橋まで行ったのは今回が初めてである。夏のような喧騒はなく、静かな山登りを体験できるといわれていたが、そこは人気の北アルプス。我々と同じように河童橋までと思える登山者は結構いた。



今回の毎日新聞旅行のツアーガイドは、東北朝日岳はじめいっぱいお世話になっている清野さん、そしてあのパワフルママの上村ひとみさんである。相変わらず海外登山のガイドではエース格みたいだ。残念ながら海外に関しては後発の毎日新聞旅行でそろえる旅行メニューは、ほとんど行ってしまっているか関心のないものであるので、そこでの接点はできそうもない。

今回は楽勝かと思ったら、結構精一杯の思いで付いて行った。なかなか楽はさせてもらえない。